

評価目標	評価対象	評価指標	自己評価				学校関係者評価		
			平均値	評価値	達成状況・課題	改善方策案	評価値	自己評価に対する考察・意見	
めざす生徒像	① 学ぶ自主性を高める	生徒	授業に集中して自分の力を伸ばそうと努力している。	0.71	3	○生徒は、授業に対して前向きな姿勢で取り組もうとしている。わからないことを質問したり発表したりしようとする生徒も増えてつづがあるが、自主的に課題解決を果たそうとする姿勢には、まだ不十分な面もある。 ○宿題などきちんとする生徒は増えてきたが、全員がそろわないことも多い。	○身近な題材や操作活動などを取り入れた、生徒が興味・関心をもつことができる授業を行う。 ○宿題・家庭学習がきちんとされているかのチェックを確実にし、できていない場合には、残してでもさせる。 ○読書を推奨する取組をキャンペーンとして学期毎に行う。	3	○生徒はまじめに学習に取り組んでいるが、積極性に欠ける面も見受けられる。生徒が自発的に学習に取り組むことができるような工夫をさらに求めたい。 ○図書館の充実がなされてきたので、さらに図書館の利用を進めてほしい。
			図書室を毎日のように利用している。	0.90					
			将来の夢や希望を持っている。	1.06					
		保護者・地域	家庭で読書を毎日している。	0.73					
			生徒は授業が分かりやすいと言っている。	0.49					
	教職員	授業参観時、一人一人が課題に向かい生き生きとして取り組んでいる。	0.75						
		生徒は、授業や生徒会でよく発言する。	0.09						
		生徒は、授業に集中して力を伸ばそうと努力している。	0.67						
		生徒は、図書室を毎日のように利用している。	0.77						
		生徒達は将来の夢や希望を持っている。	0.31						
② 言葉の大切さを伝える	生徒	人の嫌がることは、言ったりしないように心がけている。	0.81	2	○生徒は言葉が人を傷つけることがあることをわかってはいる。しかし、不用意な言葉で人を傷つけることが起きている。 ○悩みを友達・家族・先生に相談できる生徒がいるが、そうしにくい生徒への対応が十分となっていない。	○人権・同和教育推進のための学校教育を進めていくことができるよう、教職員の研修を続けていく。 ○学級活動・人権集会・部活動指導などの場を利用して、人権を大切に学習の場を設ける。 ○言語活動を重視した授業を行う。	3	○人権・同和教育について、重点的に指導を進めてきており、人権集会等で、生徒の意識も深まっている。 ○人を傷付ける発言をする生徒がいなくなるよう、言葉を大切に取組を継続してほしい。	
		自分の学級にいと落ち着く。	0.88						
		授業や生徒会などでよく発言する。	0.04						
		大和中の先生達は、悩みや相談に気軽にに応じてくれる。	0.92						
	保護者・地域	生徒はあいさつをよくする。	1.00						
③ 郷土を愛する	生徒	地域の方にも、きちんと挨拶するようにしている。	1.56	3	○生徒は地域に愛着をもち、地域の行事等、学校内外で比較的良好に参加している。 ○学校以外の場での地域への参加は多くない。	○学校以外の地域行事を把握し、生徒へ積極的に伝えていく。 ○地域と関わりをもった行事終了後、地域の方の感想を聞き、それを次の行事に生かすようにする。	3	○地域とのつながりのある行事が、多く設けられている。その行事の中で、地域の人と生徒がつながる取組をさらに期待したい。	
		住んでいる地域が好きだ。	1.39						
		生徒達は学校外で、地域の人と一緒に活動することがある。	0.23						
		生徒達は地域の方にも、きちんと挨拶をする。	0.00						
	教職員	生徒達は住んでいる地域が好きだ。	1.15						
生徒達は学校外で、地域の人と一緒に活動することがある。		1.33							
④ 規範意識をもち、自ら行動する	生徒	学校からのお知らせや連絡などは、必ず家の人に渡している。	1.13	3	○服装、授業態度など落ち着いた状態が見られる。	○学習規律、生活のきまりなど気になることがあれば、すぐに教職員で共通理解を図り、生徒を指導する。 ○生徒の生活の背後にあるものを見ようと教職員が心がける。 ○「フェイス to フェイス」を改訂し、活用する。	3		
		授業参観時、学習の雰囲気は落ち着いている。	1.10						
	教職員	生徒達は学校からの文書を、必ず家の人に渡している。	0.00						
⑤ お互いを尊重し協力する	生徒	学校に行くのが楽しい。	0.94	3	○少人数の集団の中で、人間関係が固定化し、その中で学校生活に充実感を感じることができない生徒も見られる。 ○困っている友達を見ても、手助けしようとする積極性が感じられない。	○Q-Uを全学年で実施する。 ○スクールカウンセラーや担任によるエンカウンターを有効に活用し、人を理解し、人とつながることのできるスキルを身につけさせる。 ○生徒が主体的・自発的に活動しなければ解決できない場面を多くする。	3		
		自分の考えや、気持ちをわかってくれる友達がいる。	1.46						
		大和中の先生達は、よくないことをきちんと叱ってくれる。	1.46						
		生徒達はお年寄りや障がいのある人が、暮らしやすい社会にしたいと思っている。	1.39						
	教職員	生徒は、学校に来るのが楽しい。	1.00						
		生徒はそれぞれの自分の考えや、気持ちをわかってくれる友達がいる。	0.86						
		人の嫌がることは、言ったりしない思いやりのある生徒が多い。	0.86						
⑥ やり心身を鍛え、最後まで	生徒	部活動は大切だ。	1.18	3	○部活動は、熱心に取り組んでいる。しかし、本校は運動部しかないため、運動が苦手な生徒も見られる。	○家庭との連携を図りながら、部活動に不応の状態にある生徒に合わせた指導をし、活動を進める。 ○部活動指導者のレベルアップを図る。	3	○部活動は、地域の協力(保護者、大和中学校部活動地域講演会)を得ながら大変積極的に行われている。それぞれの生徒が目標をもって取り組めるような部活動を期待する。	
		大和中の先生達は、学力をつけるために鍛えてくれる。	1.24						
		生徒にとって部活動は充実している。	0.50						
教職員	生徒に学力をつけるために鍛えている。	1.00							
	⑦ 習慣を本能的に身に付ける	生徒	人の嫌がることは、言ったりしないように心がけている。	0.81	3	○生活習慣の改善は見られるが、テレビ、ゲームの時間は多めで、就寝時間が遅い生徒も見られる。	○生活習慣のアンケートを行い、必要な指導を行う。 ○学校保健委員会やPTA研修部の中で基本的な生活習慣やノーテレビデーなどを取り扱う研修を行う。	4	○家庭の協力も得ながら、基本的な生活習慣が身につくような取組がなされている。今後、小学校PTAとの連携をとるなど工夫してほしい。
			毎日、宿題や家庭学習をする。	1.10					
			学校からのお知らせや連絡などは、必ず家の人に渡している。	1.13					
		教職員	朝、家で挨拶する。	0.45					
			学級は、生徒が落ち着いて生活できる所だ。	1.15					
生徒は、毎日、宿題や家庭学習をする。			1.15						
生徒達は学校からの文書を、必ず家の人に渡している。	0.00								
自己評価総合所見	○人権・同和教育推進を意識した学校運営を行ってきた。教職員・生徒の意識も高まってきた。 ○めざす学校像、めざす生徒像は、概ね達成されたと考える。しかし、個々に見ると問題が散見される。 ○個々の評価指標についてのポイントは様々であるが、学校教育目標の実現度は高まっている。 ○今年度は、すべきこと、取り組むべきことを明確にして取り組んできた。								
学校関係者評価総合所見	○生徒の評価も比較的良好で、生徒が学校を信頼して学習に向かっていると感じられる。教職員も生徒の求めに応える形で、よい学校にしようという姿勢で取り組んでいる。 ○前年度までの評価シートからやや簡略化されたが、評価シート(めざす学校像、めざす生徒像)に重なりがあること・小学校の評価シートと形式が全く異なることなど改善を求めたい。 ○評価シートを事前に配布することはよかった。学校関係者評価がしやすい工夫をさらに求めたい。								
学校関係者評価を受けての対応	○関係者評価委員会で受けた指摘について、職員会で共通理解する時間を設け、小学校とも連携しながら、次年度の計画を立てる。その中で、評価シート・アンケートなど美郷町内の小中学校との連携を進めていく。 ○評価項目の重複を減らしたり、問い方を工夫するなど改善を図る。 ○関係者評価委員に学校の取組を見てください場を多くする。 ○関係者評価委員からは、現在の学校の取組状況を肯定的に評価されたが、生徒がよりよくなるための実践に一層努める。								